

1 めざす学校像

1. 学校教育基本方針

キリスト教の立場から人間と社会をともに考えていくことにより、高い倫理観と確固たる人生観を持った人間の育成をめざす。

2. 学校教育目標

学院生活を通じて徳性を養い、知性を磨き、社会性を身につけ、真に気品ある人物を養成することにある。

2 中期的目標

1. 教室を家庭に（家庭的雰囲気の促進）

サレジオ会の支部（「casa」）として教育機関であると同時に親しみある雰囲気のあふれた家庭であることを目指す。合宿などをはじめさまざまな学校の活動を通して、家庭的な雰囲気や、教員と生徒、そして生徒同士の間の信頼関係を培う。心の教育を土台として知的な教育につなげていく。

(1) 出会いを育む

出会いを大切にして、大阪星光学院を家庭的雰囲気にあふれた場にしてゆく。教職員と生徒の縁、生徒同士の縁、教職員同士の縁などの人間関係を通して、一人一人が人間として成長することを目指す。

(2) 道理に基づく指導を行う

青少年を一人の人間として尊重し、一方的で強制的な指導を避ける。問題のある生徒には、何が問題かを指摘し、今後の処置や指導について理解し、納得してもらうことが重要である。生徒個人に対する注意を含む指導はできるだけ個人的に行う。生徒に対する怒りをコントロールし、道理に基づいた指導を行うことにより、生徒が教員に対する信頼を高める。

(3) チームワークをもち互いに高め合う

教員はいつも生徒の生活全体を見る教育者であり、これは全人教育の基本原則である。一人の生徒は、時間によって、また担当者によって分割されるものではなく、あくまでも一つの人格である。そこには教職員の指導理念の一致と、お互いの間の協力、チームワークが必要である。その上で、相互研修等を行うことにより、資質の向上を図る。

2. 高校入学試験の改革、中学校特別選抜入学試験の実施

高校の生徒募集形態の改革を継続して行う。

中学校入学試験において、城星学園小学校より特別選抜入学試験によって生徒を募集する。

(1) 募集形態とカリキュラムの検討

高校からの入学生の募集の規模、選抜試験の内容、選抜方法等について引き続き検討する。

中学校、高等学校におけるクラス数および各クラス定員や担当者数や教科担当者の配置を検討する。

(2) 特別選抜入学試験の実施

城星学園小学校の生徒に対し、特別選抜入学試験を実施する。

3. 新教育課程の実施・検証

新教育課程について、内容の理解・分析をさらにすすめ、検証し、今後のカリキュラムなどに反映させる。

(1) 新教育課程の内容の分析・理解

(2) 新教育課程にもとづく大学試験についての情報収集

(3) 本校のカリキュラムの検証・改善

4. 学校内ネットワークの整備および教育機器の改善と ICT 教育の充実

学院内のネットワークを整備することにより教職員の仕事の効率アップを図る。

学院内の教育機器の改善、整備を行うとともに ICT 教育の充実を図る。

5. 海外研修プログラムの充実

(1) 夏期休暇に高校 2 年生希望者対象に、ボストン研修を実施する。

ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学の研究施設を訪問し、見学および研修を実施する。

(2) 夏期休暇中にハーバード大学の学生を本校に招き、S L I C E プログラムを実施する。

(3) 春期休暇中にオーストラリア海外研修を実施する。

(4) 上記以外の国際交流プログラムの検討

6. 教務システムの改善

成績処理システムをはじめ教務全体の新しいシステムの導入に伴い、システムを改善し整備する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教室を家庭に	(1)アッシステンツァの実現 (2)教室等における生徒へのきめ細かい指導 (3)特別活動に積極的に関わり、生徒の自主性・実践的に活動する態度を育てる (4)教育活動等における教職員間の連携、協力体制の強化。相互研修により資質を高める。	ア 教室、クラブ活動、南部学舎、黒姫山荘等においてアッシステンツァを行う。 イ 教室において生徒一人一人の状態を把握したクラス運営、授業を行う。 ウ 生徒、保護者と個人面談をできるだけ複数回行い、相互理解と問題の早期発見に努め、解決する。 エ 「いじめ」のアンケートを実施し、クラス内の「いじめ」を早期に発見し解決する。 オ クラブ活動に積極的に参加し、生徒と一緒にいる時間を増やす。 カ 体育大会やスクールフェア（文化祭）等で生徒のバックアップを行う。 キ 管理職の校内巡回を行い、生徒に声をかける。 ク 生徒の質問に答えることのできる体制を作る。（場所、時間） ケ 放課後の自習室を開放する。 コ クラス運営、学校行事等における教職員の相互の連携を強め、協力体制を強化する。相互研修により、資質を高める。	ア 自己診断表における達成度 80%以上。（2022 年度 80%） イ 自己診断表における達成度 100%。（2022 年度 100%） ウ 生徒、保護者との個人面談を年 2 回以上実施する。（2022 年度 2 回以上） エ 「いじめ」アンケートを年 1 回以上実施する。（2022 年度 1 回） オ 自己診断表における達成度 80%以上。（2022 年度 80%） カ 自己診断表における達成度 70%以上。（2022 年度 70%） キ 校内巡回を週 2 回以上行う。（2022 年度週 2 回） ク 自己診断表における達成度 80%以上。（2022 年度 80%） ケ 自習室の教室利用率 60%以上をめざす。（2022 年度 60%） コ 自己診断表における達成度 80%以上。（2022 年度 80%）	ア 達成度は、76%と若干下がる。合宿行事はほぼ元戻りも、感染症対策への気配りは必要。一度なくなったものの復活は難しい。（△） イ 最重要課題。100%を求める。現実には 74%止まり。目標目指しより一層の努力が必要（△） ウ 概ね実施できた。（○） エ web による「いじめ」アンケート実施。アンケートをもとにさまざまな対応もできた。（○） オ 積極的に活動し、達成度は 80%に達した。（◎） カ 学校行事は、コロナ禍以前に戻るのが基本ではあるが、社会情勢などの変化により、以前と異なる工夫した形での実施が多く、まだまだ課題は山積みである。そんな中、今年度も多数の教員が積極的に関わっている。達成度は 76%である。（○） キ 校内巡回は毎日行われた。（◎） ク 生徒と教員間のコミュニケーションはほぼ以前に戻る。達成度は昨年度と同じ 78%。高水準にある。（◎） ケ 教室利用率は 50%程度も、参加者には偏りがある。利用者の増加には自習室の設置場所、時間などに工夫が必用。（△） コ 達成度は昨年同様 66%、さらなる協力体制の構築が求められる。（△）
2 中学・高校入試改革の推進	(1)高校入試を専願・併願に分けた選抜方法で実施 (2)中学校、高等学校のクラス編成、カリキュラムの検討 (3)中学校入学試験における城星学園小学校特別選抜入試の実施	ア 募集は、専願と併願あわせて約 15 名、入学者選抜試験で面接は専願のみの実施。 イ クラス編成、カリキュラムを検討する。 ウ 高校入試のあり方の検討を続ける。 エ 城星学園小学校より特別選抜入学試験によって生徒を募集する。	ア 専願と併願で約 15 名募集した。達成度 70%（2022 年度 70%） イ クラス編成、カリキュラムを検討する。 ウ 高校入試の選抜方法を検討する。達成度 80%（2022 年度 80%以上） エ 中学校入学試験で特別選抜試験を実施する。達成度 100%以上（2022 年度 100%）	ア 出願者は 28 名で、専願 11 名、併願 17 名が受験した。合格者は 25 名で、入学者は 10 名。達成度 80%（◎） イ クラス編成は、高校 2 年は生徒数が 5 クラス体制、他学年は 4 クラスである。（○） ウ 高校入試の選抜方法等については、いったん検討を終える。（○） エ 城星学園小学校の生徒に対する特別選抜入学試験を実施した。3 名の生徒が受験し、3 名合格し入学した。達成度 100%（○）
3 新教育課程の実施・検証	(1)教育課程の情報の収集および理解 (2)教育課程にもとづく試験情報の収集 (3)本校のカリキュラムの検証・改善	ア 新教育課程の情報を収集して理解する。 イ 試験情報を収集し、カリキュラムにも反映させる。 ウ カリキュラム研究を継続し、検証を行い、改善してゆく。	ア 自己診断表における達成度 80%以上（2022 年度 80%） イ 新カリキュラムを作成して変更する。達成度 100%。（2022 年度 100%） ウ 新カリキュラムの問題点を洗い出し、改善してゆく。達成度 70%（2022 年度 70%）	ア 高校 3 年生以外は新カリキュラムとなるも、まださまざまな課題が残っている。今後も研究していきたい。達成度 76%（△） イ 昨年度より、高校のカリキュラムを順次変更する。達成度 100%（○） ウ 高校のすべてのカリキュラムはあるものの、継続的に検討を続けて、必要な部分は改めてゆく。。達成度 72%（○）

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
4 学内環境の整備	(1)ICT 教育の充実を図る	ア ICT 教育委員会において本校における ICT 教育を検討する。整備した校内ネットワーク、各教室のプロジェクターなど機器を活用し、教育活動に反映させる。	ア ICT 教育委員会を中心に研究し、また問題点の改善に努める。 達成度 100% (2022 年度 100%)	ア 生徒端末も高校 3 年生を除き導入する。生徒が端末を持つ学年は、授業においても積極的に活用し、デジタル採点の導入も検討する。達成度 100%。(○)
5 海外研修	(1)ボストン研修を実施する (2)SLICE プログラムを実施する (3)オーストラリア海外研修を実施する。 (4)国際交流プログラムの検討	ア 夏期休暇中、高校 2 年生の希望者を対象にハーバード大学とマサチューセッツ工科大学の研究室を訪問し、研修を実施する。 イ ハーバード大学の学生を本校に招き、SLICE プログラムを実施する ウ オーストラリア、アデレードにおける海外研修を実施する。 エ 国際交流プログラムの実施の主体として国際理解の部署を拡充する。	ア ボストン研修の実施 達成度 100% (2022 年度 100%) イ ハーバード大の学生を招き、高校 1・2 年生対象に SLICE プログラムを実施。達成度 100% (2022 年度 100%) ウ アデレードでホームステイを実施。達成度 100% (新規) エ 新たな国際交流プログラムの実施、達成度 100% (2022 年度 100%)	ア 4 年ぶりによるボストン研修を実施。高校 2 年生参加。(◎) イ 夏期休暇中に、学校において高 1・高 2 による SLICE プログラムも実施。(◎) ウ 春期休暇中にオーストラリア海外研修を実施。中 3・高 1・高 2 が参加。(◎) エ 国際理解の会議を開催し、プログラムの見直しを始めるも、新規のプログラムは検討するのみ。(○)
6 教務システムの改善	(1)教務システムの再構築 (2)入試処理システム改善	ア 成績処理システムや指導要録、調査書作成等の教務システムを導入し、稼働させる。 イ 入試処理システムの改善	ア 新しい教務システムを導入する。達成度 100% (昨年度 100%) イ 新しい入試システムを導入する。達成度 100% (昨年度 100%)	ア 新しい教務システムは稼働。成績処理・指導要録・調査書等が新しくなるも、今年度もさまざまな課題は残る。順次解決中。達成度 80% (○) イ 入試システムは稼働も、まだまださまざまな課題が残る。達成度 80% (○)

4 学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見
【教育課程・学習】 ・サレジオ会の教育基本理念に基づき、学校の授業やクラブ活動、合宿施設等におけるさまざまな活動において、アシステンツァを実践しており、今年度も教育目標を達成できたと考えている。ただ、学校生活全般において、今年度も感染症による影響は残り、以前と同様ではなく、コロナ禍以降の新しいかたちを模索し工夫しながら教育活動に取り組んだ。自己診断表による評価は、昨年度と比べて、各項目においては大きな変化はなく、全体の評価は昨年度と同じ数値であり、ようやく落ち着いて諸活動に取り組むことのできた一年であった。 ・教員の協力体制については、自己診断表で 2022 年度 23 年度ともに 74% で良好であるが、低評価のものも散見するので、問題点の把握にもつとめる。 ・高校生徒募集は、入試に若干の変更を行い、昨年度より受験が大幅に増加した。 ・大学入試は、今年が旧課程の最後。来年度からは新教育課程に基づく入試となる。新課程への対応は順調にすすみつつある。 ・教員研修は、自己診断表による評価は 66% と昨年度と同じである。学外への研修は 2% の増加も、学内・教科内の研修への数値は 2% ほど減少している。校内における教員相互の授業見学などで各人の授業研究に好影響はあるものの、特に学内の研修について改善する余地がある。 【教育環境の改善】 ・各教室のプロジェクターと生徒各自の端末を利用した教育活動を積極的に実施も、生徒の端末の扱い方に問題が発生することがあり、ICT 教育委員会が、課題点を改善していつている。 【海外研修】 ・今年度はようやく海外研修プログラムをすべて実施できた。長い中断時期のためか、どのプログラムも参加者が多かった。	【第 1 回 (6 月 5 日)】 ・感染症を考えて開催せず。 【第 2 回 (12 月 9 日)】 ・コロナ禍で、学校行事の見学や授業参観、保護者面談などが中止になるなど保護者が来校する機会が少なく、保護者と教員の間のコミュニケーションが不足している。学校のようなすがわかりにくい。 ・南部学舎、黒姫山荘など学校施設を見学したい。 ・学校からの連絡が紙媒体のプリント等では保護者に渡らないことが多い。ペーパーレス化し、保護者が確実に確認できるようにする。 ・学食について、メニューをはじめさまざまな意見があり、検討する必要がある。 ・学校の設備面は概ね問題ないが、空調（特に夏場）については快適さに欠けるときがある。改善できないだろうか。 ・行事をコロナ禍以前の状態に戻してほしい。 【第 3 回 (3 月 16 日)】 ・南部学舎安全対策（緊急の避難路）工事を実施するが、工事中であっても避難路は確保する。 ・中学、高校とも十分な受験者数が確保されていて、非常に好ましい。 ・校内ネットワーク環境が整い、生徒がタブレットを使用できるようになったが、使用に関して問題も発生し、使用制限をかけざるを得ない状況である。機能を十分使えないので、改善を望む。 ・冬期の黒姫山荘を利用した合宿の再開に努力を望む。 ・校舎外壁補修工事実施については了解する。